

夜間の監視作業

コスタリカのプラヤグランデでは、20年以上もオサガメの卵の密漁が続き、オサガメが次世代へ命を繋ぐのを妨げてきました。アースウォッチ研究者とボラ
ンティアは、この生物種の未来を守るため地元住民と協力して活動しています。

—アレックス・モリス—

生涯の友情の誕生

マリア・テレサ・コバークがウミガメの営巣を研究しようと1980年代後半に初めてコスタリカのプラヤグランデを訪れた際、ドーナ・エスペランザ・ロドリゲスは心配しました。当時、プラヤグランデは世界で最も重要なオサガメの営巣地でしたが、そこは特に研究者にとって危険な場所でした。この海岸にはオサガメの巣から卵を盗もうとする人々が国中の至る所からやって来たからです。エスペランザと彼女の家族は、このような密漁行為を管理する仕事をしていました。この場所の卵は自分の物だと示すため、村人たちは棒で砂浜に線を引き始めたところでした。ナタヤクタチャス（より小さな刀）を持ち込んで、営巣地の自分のナワバリを守ろうとする人々もいました。卵の密漁者たちの争いは次第にエスカレートし、時には死人が出ることもさえありました。エスペランザはマリア・テレサの命が危険にさらされることを知っていたのです。

自分の心配を少しでも減らそうと、エスペランザはこの土地に不慣れな若い女性の夜の海岸パトロールに同行することにしました。毎晩、彼女は4人の子供と他の家族を置いて、ウミガメの調査に向かうマリア・テレサに会いに出かけました。マリア・テレサはコーヒーの入ったピッチャーとプラスチック製のコップを持ち歩いていました。マリアはコーヒーを卵の密漁者たちに勧めながら、巣作り中のウミガメを観察して保護しようという自分の活動について話したのです。コーヒーが無くなると、二人の女性はオサガメを数え始めました。彼女たちは、並んで砂浜を何時間も歩き、巣作りをしているオサガメを数え、巣穴の中に産まれた卵の数だけでなく、盗まれた卵の数も記録しました。

1980年代後半のプラヤグランデでは、警察による介入もなく、ウミガメの卵の密漁がはこびっていました。「当時は法律がなかったのです。私が袋いっぱいの卵を持って警官の脇を歩いたとしても、彼らは私に何もしてませんでした」とエス

ペランザは語りました。オサガメの卵は地元住民にとって大切な収入源でした。これらの卵はすぐに海岸で買いとられ、トラックでサンホセへと輸送されました。オサガメの卵はサンホセの市場で催淫剤として売られていました。また、これらの卵は地元住民にとっては貴重なタンパク源でもありました。

マリア・テレサとエスペランザがウミガメと巣を数えながら海岸を歩き、共に長い時間を過ごすうちに、二人の間には深い友情が生まれました。マリア・テレサはエスペランザにオサガメのライフサイクルや彼らの祖先が 1 億年以上前まで遡れること、海洋生態系における彼らの役割などについて教えました。そして最終的に、エスペランザはこの重要な営巣地での密漁がオサガメの未来にどのような影響を与えるのかということを理解したのです。

でも、その時はまだ、それが彼女の生計を立てる手段でした。

「海岸には卵を取っている人たちがたくさんいたし、彼女の連れはコーヒーだけだったから、私は彼女と一緒にいたくて出かけたのよ」とドーナ・エスペランザは語りました。

一世代の消失

マリア・テレサは自分には助けが必要だということを知っていました。カメを保護するだけでなく、営巣地としてのこの海岸の重要性を実証するのに必要な膨大なデータを収集する支援が必要でした。プラヤグランデは、当時、地球上で発見されていた中では明らかに最大と言えるオサガメの営巣地でした。しかし、十分なデータがなければ、緊急に必要な保護を受けることは不可能でした。

コスタリカ環境省の副大臣であるマリオ・ボザ博士から電話を受けとった時、生物学者のフランク・パラディノ博士はトルトゥゲーロ全域でオサガメの調査をしていました。マリオは、彼の助手であるマリア・テレサ・コバークという女性が、プラヤグランデとして知られている場所で世界最大のオサガメの営巣地を発見したことを話しました。

フランクは半信半疑でした。

「トルトゥゲーロではオサガメの巣を 2 マイルごとに見つけていました。マリア・テレサは同じ範囲に 100 匹のオサガメがいると報告した。それはまるでゾウの墓場のような話で、私たちは彼女の話信じられませんでした」

疑いはあったものの、フランクは自分の目でそのカメを確認するため、調査旅行の途中でプラヤグランデに“寄り道”する計画を立てました。すると、実際、彼の滞在初日に 100 匹以上のオサガメが海から現れ、産卵をしにゆっくり砂浜に這い上がってきました。

しかし、翌朝、砂浜には何も残っていませんでした。ほとんどの卵が巣から盗まれていたのです。1970 年代から 1990 年代初期にかけては、海岸に産まれたウミガメの卵の 90%~全てが密漁されたと研究者は推測しています。ウミガメの一世代、その全てが失われたのです。

マリノ・ラス・バウラス国立公園

初めてフランクがアースウォッチについて知った時、彼はこのプロジェクトに最適だと思いました。アースウォッチボランティアはオサガメの巣作りを保護する法律の立案に必要な、膨大なデータ収集作業で彼の調査チームを助けただけではありません。市民科学者（ボランティア）が常に海岸に存在していることで、卵が心無い人々に盗まれるのを防ぐこともできました。

1990 年代初頭、最初のアースウォッチの研究チームがプラヤグランデに到着し、現在は“コスタリカのウミガメ”として知られている調査に参加しました。これはアースウォッチの中でも、長期間続いているプロジェクトの 1 つです。この調査チームによって収集された初期のデータは、プラヤグランデは国立公園（マリノ・ラス・バウラス国立公園）にするべきだとコスタリカ政府を説得するのに使われ、その結果、営巣地や複数の周辺の生息地におけるウミガメは連邦の保護を受けるようになりました。

しかし、これが正しい決断だと誰もが納得した訳ではなかったのです。

「私たちが地元住人から大切なものを奪っているとエスペランザは感じていました。オサガメの卵は彼女が家族のために得ている生活手段だったのですから」

とフランクは言いました。マリア・テレサは、この公園が人々にどれほど利益をもたらすかを理解してもらうため、エスペランザや他の地元住民たちと密接に協力しながら調査活動を行いました。彼女はオサガメのデータ収集や調査チームに協力する見返りとして、エスペランザが補助金を受け取れるようにしました。

やがて、かつて密漁を行っていた者も含め、この公園に隣接する町々の多くの住民達が公園のガイドになるという契約に署名しました。現在、彼らはガイドとして卵を密漁していた頃より多く稼ぎ、調査チームと地元住民の双方にとって有益な、ウィン・ウィンの状況になっています。彼らは研究者たちと共にオサガメに明るい未来が確実に訪れることを願って協力しています。

絶滅の危機

現在、ネーサン・ロビンソン博士はアースウォッチのコスタリカウミガメ調査の主任研究員を務めています。過去7年間、かつてはフランクの博士課程の学生の一人だったネーサンは、プラヤグランデでオサガメや他の種の営巣に関するデータ収集作業でアースウォッチのボランティアチームを指導しています。この活動は、現在、最も長く継続されているデータベースに数えられている、太平洋に生息するウミガメデータベースの拡充に貢献しています。

収集したデータによると、オサガメの未来は不確実です。1990年代初めから、プラヤグランデで営巣するカメの数は著しく減少しました。1990年から1995年の間だけでも、産卵期に営巣するオサガメの数は一夜あたり100匹から40匹に減りました。今年は、産卵期を通して、確認されたのは12匹だけでした。

「このような変動はエルニーニョによって自然に起こることもありますが、通常は回復します。今回は未だに回復していない。むしろ逆に、減る一方です」とフランクは語りました。

20年以上も続いた卵の密漁がこの生物種の個体群を滅ぼしてしまったのです。その上、コスタリカの漁業が延縄漁法を採用し、年長のメスガメが誤って混獲されるようになりました。大人のカメが殺され、さらに、密猟によって彼らの代わ

りに繁殖を担う世代の仔ガメも殺されました。その結果、この個体群は崩壊したのです。

調査に参加して、オサガメを保護しましょう

調査スタッフ、公園のガイド、コスタリカ政府、アースウォッチにとって、生き残ったわずかなカメを守るため、今こそ、調査と保護活動の改革と強化が必要です。

「自分の責任を逃れ、ただこの種に絶滅への道を辿らせているという思いが、毎晩、私を海岸に行かせるのです。このような作業の重要性を信じていますから。ここのオサガメは最後の 12 匹になってしまったのかもしれないが、その一匹一匹が助けを必要としています。全てのカメがオサガメという種の繁殖に不可欠な存在なのです」とネーサンは語りました。

この調査活動についてもっと知りたい方は、アースウォッチホームページの“[expedition page](#)”をご覧ください。この Night Watch に関する質問やコメントがある方は、communications@earthwatch.org までご連絡ください。